

○子どもの居場所づくり「ひだまり」の運営

豊学区地域学校協働活動推進委員会の委員4名が中心となり、放課後の活動として実施した。年間延べ人数で380名の子どもたちが参加、ボランティアは年間延べ人数で140名が関わった。

今年度は、場所を豊保育園跡地に変更して敷地が広くなったため、室内での活動に加えて、サッカー・野球など、屋外での活動も取り入れることができ、より子どもたちの希望の活動を行うことができた。また、地域ボランティアの手を借りて、グラウンドを平らにしたり、ネットを配置したりするなど、安全な遊び場になるように整備した。

学習活動だけでなく、七夕・クリスマス・花火など、季節ごとの楽しい行事を行いながら、放課後の子どもたちの健全育成に努めた。



○地域と連携したダルマガエルの保護活動

7月4日、5年生が総合的な学習の時間の取組として実施した。講師をお招きしてダルマガエルについてのお話を聞いた。実際に現場に出向いて観察を行う予定であったが、猛暑のため、観察は中止となった。

また、ダルマガエルを守る会の皆さんと一緒に、個体数調査に一部の児童が参加した。



○「タウンミーティング」

6年生が総合的な学習の時間のまとめとして、豊学区の将来について考えた。自分たちが考えたことを地域の方に発表した。豊学区地域協働学校運営協議会、豊学区地域学校協働活動推進委員会、とよっ子サポーターズ(PTA)の方に聞いてもらって、意見を述べてもらった。いただいたご意見をもとに、自分たちの発表がより良いものになるように話し合うことができた。6月13日に実施した。

来年度以降も実施の方向であるが、さらに子どもたちが地域の方のご意見をもとに自分の意見を深められる形になるよう実施時期・実施方法を検討していく必要がある。



○地域人材・事業所等による「夢」についての講話



6年生の総合的な学習の時間には「夢」について取り組んだ。様々な職業の方に、「働きがい・夢」に関するお話を伺った。

学区内にあるニッカリ・杉本社長や看護師・弁護士など、様々な立場の方からお話をしていただき、子どもたちが積極的に質問することで「夢」について深めることができた。

また、西大寺公民館との連携、協働を進めるため、内田館長、村田主任には豊学区地域学校協働活動推進委員会の委員をお願いしている。



○ 学区内の事業所との連携による学習活動

学区内の事業所見学については、いちご農園マルシェ・郵便局(2年)、東部クリーンセンター・平林金属・エコ便・消防署、シーアール物流、カーツ、コメリ、ひかり産業等(3年)で実施した。

それぞれの事業所が工夫を凝らして事業所の紹介をしてくださった。子どもたちにとっては、地域にある身近な事業所であり、小さい頃から事業所の場所等は知っているが、何を作っているのか、何をしているのかはわかりにくい存在であった。その事業所を見学することにより、それらの事業所をより身近に感じることができた。

事業所にとっても、地域とつながるチャンスの一つになったのではないと思われる。学区内の事業所へは、徒歩で移動をしているが、毎回地域ボランティアが付き添うことで、子どもたちの安全面の確保にも努めている。



○ 地域人材による講話

4年生の社会科の学習に合わせて豊学区を水害から守ってきた地域の方のお話を聞いた。子どもたちにとって身近な豊学区が、洪水で水浸しになった話を聞いて、自分たちで生活を守る大切さを実感できる時間となった。

